

部位別
がん
研究室

FILE 01

肺がん

肺がんによる死亡数は増えています

誌上セミナーは今回から肺がんを取り上げます。肺がんは、平成28年度金属けんぼ加入員の1人当たり医療費において、がんの中では乳がん、大腸がんに次いで3番目に医療費が多くなっています。

肺がんは男性に多いがんです

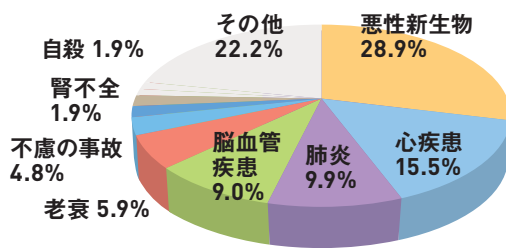
肺がんは、男女比が3対1と男性に多く、これは喫煙率が男性に高いためと考えられています。しかしながら、近年はたばこを吸わない女性の肺がんも増えています。

肺がんは近年急速に増加しています

日本人の2014年の死亡数を死因順別にみると、第1位はがん（悪性新生物）で37万人弱、第2位は心疾患19万人、第3位は肺炎12万人となっています。がんによる死亡数は、一貫して増加を続け、1981年以降、死亡原因の第1位となり、2014年の全死者に占める割合は約3割となっています（グラフ1）。

グラフ1

主な死因別死亡数の割合（2014年）

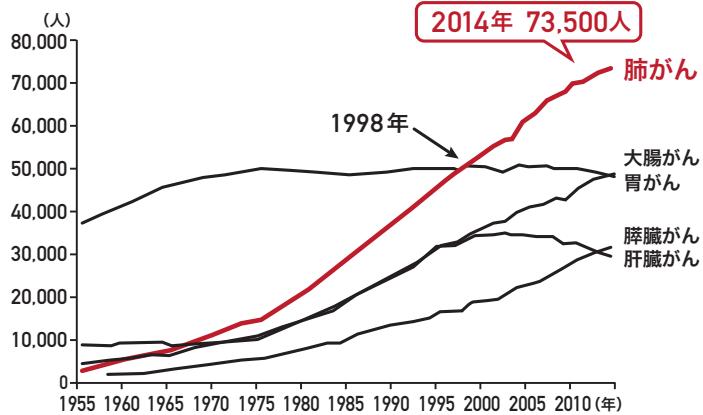


がん死亡が36万7,943人で全体の28.9%

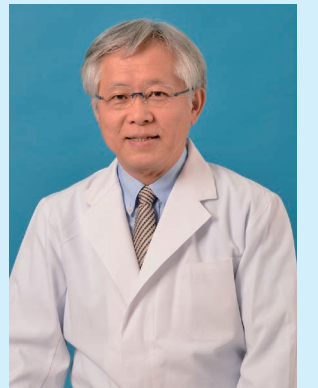
な死因別死亡数の割合。

がんについて死亡数を部位別にみると（グラフ2）、男性の肺がんは増加傾向が著しく（グラフ3）、1993年に胃がん

グラフ2 部位別にみた全がんの死亡数の年次推移



を上回って第1位となり、2014年の男女合計の死亡数は7万人を超えています。また、女性の肺がんも増加傾向が続いており（グラフ4）、近年では大腸がんの次に多いがんになっています。

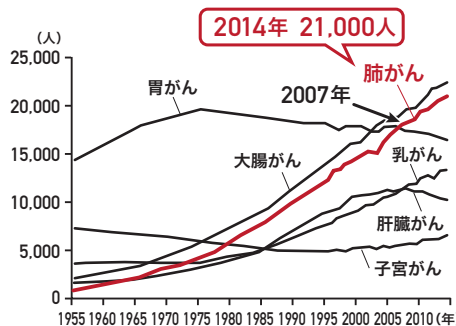


奥村 栄

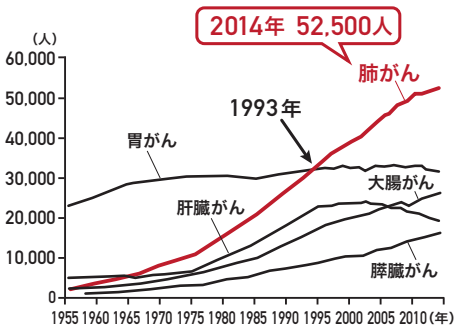
がん研究会 有明病院
呼吸器センター-外科
呼吸器センター長・呼吸器外科部長

筑波大学医学専門学群卒業。三井記念病院で外科の初期研修を受けた後、北茨城市立病院にて地域医療を経験。平成元年からがん研究会附属病院に勤務。2008年から呼吸器センター-外科部長・2012年に呼吸器センター長となり現在に至る。専門は肺がん・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍などの外科療法。呼吸器外科全体で年間約550件の手術件数、肺がん350件・転移性腫瘍120件などを行っている。

グラフ4 グラフ2の女性のみに



グラフ3 グラフ2の男性のみに



グラフはすべてがん研究会有明病院出典

今後も、肺がんはがん死亡の1位を占め、しかも増加していくことは確実と考えられています。肺がんは50歳以上の方に多いのですが、激増しているのは70歳代の高齢者で、10年前に比べるとおよそ3倍になっています。わが国の平均寿命の延伸、高齢化社会への突入が肺がんの増加に拍車をかけています。これは戦後、たばこを吸うようになった人の率が非常に増加したため、その世代が発がん年齢に至り、統計となって現れてきているためと考えられます。

肺がんは、たばこを吸っていない人は大丈夫？

喫煙が最大の原因

肺がんの原因の一つとして、現在のところ、はつきりしているのは喫煙です。特に小細胞がん、扁平上皮がんという種類の肺がんは喫煙との因果関係が深く、たばこを吸わない人はほとんどかからないがんです。たばこを多く吸う人ほど肺がんにかかりやすく、一般に重喫煙者（1日に吸うたばこの本数×喫煙年数）喫煙指数が600以上の人、いわゆるヘビースモーカーは肺がんの



高危険群です。喫煙者の肺がん死亡の危険度は非喫煙者の4〜5倍と言われています。喫煙量が1日20本以上の場合には10倍以上、喫煙開始年齢が早いとさらに危険度が増加することが明らかに

なっています。また、間接喫煙あるいは受動喫煙といひ、本人がたばこを吸わなくとも周囲に喫煙者がいることが原因で肺がんになる人も多く、社会問題となっています。

これ以外に、食事の欧米化、大気汚染なども原因のひとつといわれていますが、はつきりしたことは証明されていないのが実情です。なお、特殊な肺がんとして、断熱材、絶縁材として広く使用されていたアスベストやクロムへの曝露による肺がんがあります。それは主に特殊な職業に携わった人のかかる肺がん（職業性肺がん）であり、普通の日常生活を送っている人ならあまり心配する必要はありません。

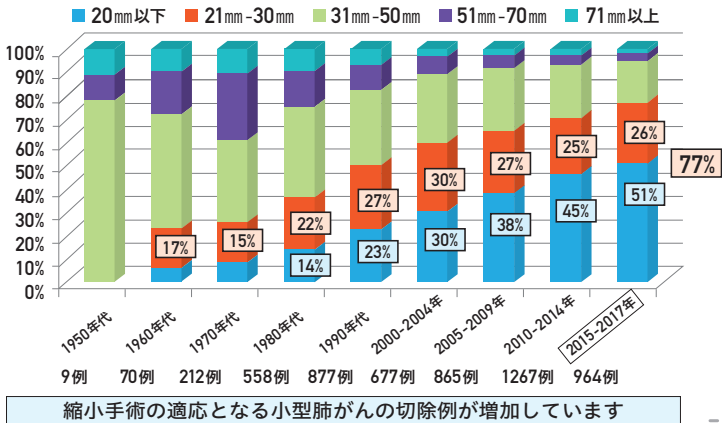
たばこを吸わない人の肺がんが増えています

喫煙をしていない人の肺がんが増えてきています。その原因として明らかなのは、特定されていません。

肺がんと遺伝子の異常との関係は？

一般的に、がん細胞は遺伝子の異常によって発生します。遺伝子は私たちの体を作っている細胞というとても小さな箱の中心にある核という部分に存在します。この遺伝子に異常を引き起こさせる原因にはさまざまなものが考えられています。肺がんに関しても近年研究が進んでおり、EGFRやALKと呼ばれる遺

グラフ5 年代別にみた腫瘍径の分布（肺がん切除例）



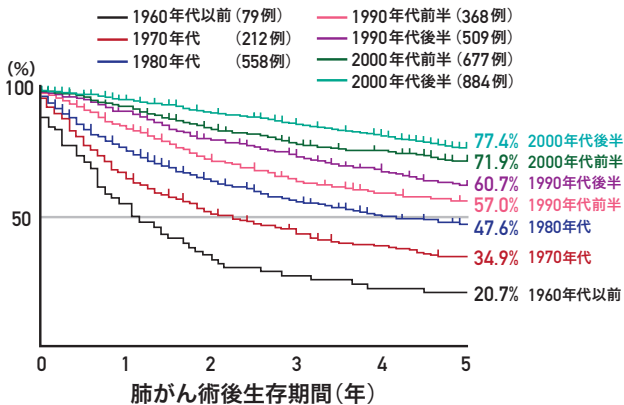
伝子の異常が、がんの原因の一つであることがわかってきました。しかし、がんの発生にはいくつもの遺伝子異常が複雑に絡み合っていると考えられており、まだまだ完全に解明されているとは言えないのが現状です。

肺がんも早期発見・早期治療が大事

国内の臨床試験では、CT検査が肺がんの死亡率を低下させたという報告はありません。しかしながら、CT検査の普及により小型肺がんが治療の対象となる比率が明らかに増加してきました。当院

の原発性肺がん切除例の腫瘍径の年次変化では、1990年代から2cm以下の小型肺がんの比率がどんどん増加（グラフ5）してきています。その結果、当院での肺がん切除例の成績が年代ごとに改善してきています（グラフ6）。

グラフ6 年代別にみた肺がんの生存曲線



5月31日は世界禁煙デー

WHO（世界保健機関）は毎年5月31日を「世界禁煙デー」としており、世界中で禁煙運動が展開されます。

日本でも5月31日から6月6日までを「禁煙週間」と設定し、たばこの害を訴えるさまざまな広報活動を行います。どうぞ、ご注目ください。